

目 次

国語 Vol.2

第一章 習得編

| | | | | |
|---------------------------------|----|------|------|----|
| 1 文学的文章 (1) (隨筆) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 4 |
| 2 文学的文章 (2) (隨筆) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 8 |
| 3 文学的文章 (3) (隨筆) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 12 |
| 4 說明的文章 (1) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 16 |
| 5 說明的文章 (2) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 20 |
| 6 說明的文章 (3) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 24 |
| 7 詩 (1) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 28 |
| 8 詩 (2) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 32 |
| 9 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 36 |
| 10 文法 (1) (名詞) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 40 |

第二章 定着編

| | | | | |
|---------------------------------------|----|------|------|----|
| 11 文学的文章 (4) (小説) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 44 |
| 12 文学的文章 (5) (小説) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 48 |
| 13 文学的文章 (6) (小説) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 52 |
| 14 説明的文章 (4) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 56 |
| 15 説明的文章 (5) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 60 |
| 16 説明的文章 (6) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 64 |
| 17 詩 (3) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 68 |
| 18 詩 (4) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 72 |
| 19 漢字・語句 (2) (音読みと訓読み／熟語の組み立て) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 76 |
| 20 文法 (2) (動詞／形容詞／形容動詞) | 例題 | 確認問題 | 練成問題 | 80 |

第三章 演習編

| | |
|----------------------------------|-----|
| 21 文学的文章 (7) (隨筆) | 84 |
| 22 文学的文章 (8) (隨筆) | 90 |
| 23 文学的文章 (9) (隨筆) | 96 |
| 24 說明的文章 (7) | 102 |
| 25 說明的文章 (8) | 106 |
| 26 說明的文章 (9) | 110 |
| 27 短歌・俳句 (1) | 114 |
| 28 短歌・俳句 (2) | 118 |
| 29 漢字・語句 (3) (ことわざ／慣用句) | 122 |
| 30 文法 (3) (副詞／連体詞／接続詞／感動詞) | 126 |

第四章 実戦編

| | |
|--------------------------------|-----|
| 31 文学的文章 (10) (小説) | 130 |
| 32 文学的文章 (11) (小説) | 136 |
| 33 文学的文章 (12) (小説) | 140 |
| 34 説明的文章 (10) | 144 |
| 35 説明的文章 (11) | 150 |
| 36 説明的文章 (12) | 154 |
| 37 古典 (1) | 158 |
| 38 古典 (2) | 162 |
| 39 漢字・語句 (4) (四字熟語／故事成語) | 166 |
| 40 文法 (4) (助詞／助動詞) | 170 |
| 付録：漢字練習 1 ~ 40 | 174 |



第一章 習得編

1 文学的文章 (1) (随筆)

例題 1

- (2) 一線②「大人ってどうしてこんなうそを平気で信じられるんだろう?」とあります、「こんなうそ」とは具体的にどんなことを指していますか。書いて答えなさい。

- (3) この文章は何について書かれていますか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **設定** 『ぼく』の子どものころの生活環境を読み取ります。第三段落

に着目し、「戦時中、隙間の多い日本家屋で、物資が不足していたから。」という理由を読み取ります。「なぜ」と問われているので、「～から。」とまとめられます。

(2) **内容理解** 「こんなうそ」の内容をまづつかみます。幼いころの『ぼく』は、まだ寒いのに、大人は正月を「新春」と言つて「春」を祝つてゐるため、不思議に思つたのでしょう。以上は「正月を新春と呼んでいること。」とまとめられます。

(3)

主題

この文章は、全体として何について述べているのかをつかみましょう。内容をまとめると、「幼いころの『ぼく』は、正月の寒い時期を「新春」と呼ぶのに抵抗を感じ、三月になつて春の到来を感じていた」となりますが、主題としてまとめると、「『ぼく』にとつての「春」はいつかということ。」となります。

(1) 一線①「こんなに寒いのに」とあります、「ぼく」が特に寒さを感じたのはなぜですか。その理由を書いて答えなさい。

〈日高敏隆「春の数えかた」より〉

（篠田桃紅「きのうのゆくえ」より）

(1) 線①「感嘆の声をあげた」とあります、その理由を書いて答えなさい。

い。

(2) 線②「私はちょっと拍子抜けした」とありますが、「私」はなぜ「拍子抜け」したのですか。その理由を、「私」のその時の状況を考えて書いて答えなさい。

(3) 線③「船でパナマ運河を通過しても、ムレないよう、虫もカビもつかないようにしてある」とあります、N氏は、作品を虫やカビから守るためにどのようなことをしたのですか。書いて答えなさい。

解法のポイント

(1) **心情** 傍線①の直後に「私の作品にではない。作品はまだ紙に包まれていて」とあることから、「作品を保護していた杉板の包み方と香りがすばらしかつたから」であることが分かります。

(2) **心情** 異国で初めての個展開催で、「私」は自分の作品がどう評価されているか、緊張や不安を抱えていたのでしょう。ところが、「皆が作品ではなく、梱包に用いられた杉板にばかり気を取っていたから」、張りつめていた気がぬけるような思いを「私」は味わっています。

内容理解 N氏が梱包の際に「作品の間に杉材をあてた」のは、輸送する作品の保護という実用的な目的からだと考えられます、結果としてはそれが思いがけない匂いを届けることになったのでした。

確認問題

1 次の文章を読んで、あとに問ひに答えなさい。

〈森田たま「もめん隨筆」より〉

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

20
15
10
5

□ (1) **段落構成** この文章の前半の段落「その年のいつごろからかゝづいでいるようである」をさらに三つに分けるとすると、どこで分けられますか。①第二の部分と、②第三の部分の最初の六字を、それぞれ本文中から書き抜いて答えなさい。

□ (2) **内容理解** — 線①「みんなが敬遠して」とあります。が、みんなはどうすることを敬遠したのですか。本文中から十字以内で書き抜いて答えなさい。

□ (3) **心情** □ ※ に入る最も適切なことばを、本文中から九字で書き抜いて答えなさい。

□ (4) **内容理解** — 線②「日曆と競争で生きている」とあります。が、これと同じ内容を述べている部分を、本文中から十六字で書き抜いて答えなさい。

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |

次の文章を読んで、あととの問いに答えなさい。

〈室生朝子「目に見えない贈り物」より〉

- (1) 心情 — 線① 「ものずきな雑誌もあつたものだ」には、犀星のどんな気持ち（本心）が隠されていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 出版社に対してあきれる気持ち。
 イ 娘の能力を疑い、あやぶむ気持ち。
 ウ 娘にチャンスが来たことを喜ぶ気持ち。
 エ 出版社の目のつけ所に感心する気持ち。

(2) 心情 — 線② 「庭からそつとのぞいていた」とありますが、このときの犀星の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ウ 監視 ア 心配 イ 疑惑
 エ 期待

(3) 細部 — ① ~ ④ には、「目」または「手」のうちのいずれかが入ります。それであてはまることばを書いて答えなさい。

| |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ④ |

(4) 細部 — ※に入る最も適切なことばを、本文中から三字で書き抜いて答えなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |

(5) 内容理解 — 線③ 「目に見えないもの」とは何ですか。本文中から五字で書き抜いて答えなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

20

15

10

5

